

全国市議会旬報

第 2200 号

ぜんこくしぎかいじゅんぽう

令和4年 8月5日
(2022年)
毎月3回5の日に発行
発行 全国市議会議長会

〒102-0093
東京都千代田区平河町2-4-2
代表 TEL 03 (3262) 5234
旬報 TEL 03 (3262) 2309
発行人 橋本 嘉一
https://www.si-gichokai.jp



医師不足や偏在解消求める

第174回社会文教委員会



近藤社会文教委員長
(安城市)

幼児教育・保育の充実、教職員の人材確保と働き方改革などを求める要望書を決定した。

冒頭、近藤委員長はあいさつで▽地域医療施策

社会文教委員会（委員長

近藤之雄安城市議会議長）は7月14日、第

174回委員会を開催し、

医師確保対策や新型コロナウイルス

対策、

ナウシルス感染症対策、



佐藤厚生労働副大臣（右から2人目）

バとして出席した浅野裕司副会長（岐阜市議会議長）は「諸課題の解決に向け、皆様とともに全力で取り組んで参りたい」と述べた。

協議では、▽地域医療

施策▽少子化対策等▽文

教施策―など社会文教施

策に関する事項を求める

要望書を決定（要望事項

は下、全文はHP掲載）。

特に地域医療施策に関

して医師の地域偏在を抜

本的に解消する仕組みの

早急な確立などを、少子

化対策に関して出産育児一時金の現在の負担に見合う形への引き上げなどを要望している。

委員会ではこのほか、厚生労働省の三好圭参事官（総合政策統括担当）から「社会保障制度をめぐる最近の動向」と題する講師説明があった。

委員会終了後、近藤委員長、阿部かほる副委員長（塩竈市議会議長）、詫間茂副委員長（観音寺市

議会議長）は政府に対し要望活動を実施。佐藤英道厚生労働副大臣に面談要望を行った。

今号で本紙 2200号 発行

全国市議会旬報は、今号で第2200号の発行を迎えることができました。昭和36年7月の創刊以来、長きにわたり、皆様方にご愛読いただいておりますことに對し、衷心より厚くお礼申し上げます。創刊時より月3回5の日に発行し続けてこられたのは、全国各市区の議長をはじめ議員、事務局職員の皆様のご支援、ご協力のおかげと深く感謝申し上げます。また、本紙発行にあたり、情報・資料等をご提供の関係官庁や団体の方々に対しましても厚くお礼申し上げます。今後とも、皆様方への有意義な情報提供に努めるとともに全国の市区議會議員、事務局職員の皆様と本会をつなぐ媒体として一層の紙面充実へ努力を重ねてまいりますので、引き続きご愛読のほどお願い申し上げます。

企画議事部 旬報担当一同

社会文教委員会要望事項

- | | |
|--|---|
| <p>1 医療保険制度</p> <p>① 医療保険制度改革
② 国民健康保険制度
③ 後期高齢者医療制度</p> <p>2 地域医療施策</p> <p>① 医師不足・偏在対策等
② 自治体病院への財政支援等</p> <p>3 保健衛生施策等</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症対策
② 難病患者対策の推進
③ インフルエンザ予防接種
④ 麻しん（はしか）対策
⑤ がん検診への支援
⑥ 水道事業</p> <p>4 社会福祉施策</p> <p>① 障害者施策
② 発達障害が疑われる子どもへの支援
③ 医療的ケア児への支援
④ 生活保護制度
⑤ ひきこもりに対する支援
⑥ 認知症施策
⑦ 民生委員・児童委員の担い手不足の解消</p> <p>5 少子化対策等</p> <p>① 子ども・子育て施策等
② 保育所の待機児童解消
③ 放課後児童対策
④ 子ども医療費助成制度
⑤ 不妊治療への財政措置</p> | <p>⑥ 児童虐待防止対策
⑦ 子どもの貧困対策</p> <p>6 介護保険制度</p> <p>① 介護サービスの提供体制確保
② 財政運営</p> <p>7 雇用対策</p> <p>① 新型コロナウイルス感染症への対応
② 地域雇用対策
③ 多様な人材の活躍促進</p> <p>8 文教施策</p> <p>① 教職員の人材確保と働き方改革
② 小学校外国語教育の整備
③ 35人学級の実施
④ 特別支援教育の充実
⑤ 栄養教諭・学校栄養職員
⑥ 学校給食費の無償化
⑦ 学校のICT環境整備
⑧ 学校施設の老朽化対策等
⑨ いじめ防止対策
⑩ ワールドマスターズゲームズ 2021 関西</p> <p>9 環境保全施策</p> <p>① 地球温暖化対策
② 廃棄物処理対策
③ 海洋ごみ対策
④ アスベスト対策
⑤ 皮革排水処理への支援
⑥ 建設発生土対策</p> |
|--|---|

協基地 基地・調整交付金 所要額確保要望

全国市議会議長会基地協議会（会長＝清水義明福生市議会議長）は7月12日、都内で第103回理事会を開催し、基地対策関係予算の所要額確保などを求める要望書を決定した。翌13日には基地関係国会議員との情報連絡会を開催し、終了後には関係省庁・国会議員へ要望活動を行った。

第103回理事会

12日に開かれた理事会では冒頭、安倍晋三元首相の死去を悼み、黙とうを捧げた。

清水基地協会長はいいさつで、▽基地・調整交付金、基地周辺対策経費の所要額確保▽新たな中期防衛力整備計画の策定の際に地方の意見に配慮すること―などについて、一本協議会が一致団結した、力強い要望活動



清水会長
つするあいさ (福生市)

展開することが必要不可欠」と述べ、支援と協力を訴えた。

協議では、基地対策関係施策の充実強化に関する要望書を決定した。

要望書では、重点要望項目として①基地・調整交付金（総務省所管）の所要額確保②基地周辺対策経費（防衛省所管）の所要額確保、中期防衛力整備計画策定に当たっての地元意見への配慮―を求めているほか、▽地方財政措置の拡充▽障害防止事業の充実強化▽住宅防音事業の充実強化―など基地周辺対策の充実強化を要望している（要望書は本会HPに掲載）。

書は本会HPに掲載）。

基地関係国会議員との情報連絡会

13日の基地関係国会議員との情報連絡会では、大塚拓衆議院安全保障委員長、平木大作参議院総務委員長、馬場成志参議院外交防衛委員長、小野寺五典自民党安全保障調査会長、輿水恵一公明党総務部会長、寺田稔内閣総理大臣補佐官、佐藤正久自民党防衛施設問題に関する議員連盟幹事長が出席し、協議会の要望事項などについて基地協役員と意見交換を行った。

冒頭、清水会長は要望

陳述を兼ねたあいさつとして、▽基地・調整交付金の所要額確保、基地交付金の対象資産の範囲の自衛隊の使用する全資産への拡大▽基地周辺対策事業経費の所要額確保、特に特定防衛施設周辺整備調整交付金の所要額確保、同事業の適用基準の更なる緩和―などを求めた。意見交換では、出席市町村から国会議員へ▽防衛施設周辺整備対策の事業推進（北海道上富良野町）▽移転補償の見直し（青森県六ヶ所村）▽北海道の自衛隊の更なる体制強化（帯広市）▽大村飛行場周辺地域の航空機騒音対策（大村市）▽陸上自衛隊演習場および米軍陸軍弾薬庫における環境保全対策（東広島市）―などの要望があり、活発な意見交換が行われた。会議終了後、正副会長・相談役は政府・国会議員に対し要望活動を実施した（4面掲載）。



平木参議院総務委員長



大塚衆議院安全保障委員長



小野寺自民党安全保障調査会長



馬場参議院外交防衛委員長



寺田内閣総理大臣補佐官



輿水公明党総務部会長



佐藤自民党防衛施設連幹事長



岩本防衛大臣政務官 (右から 6 人目)



田所自民党総務部会長 (中央)



北村自民党副幹事長 (右から 6 人目)

概算要求前要望活動

【要望参加者】

▽会長=清水義朋(福生市)
▽副会長=石原賢治(東広島市)、有城正憲(帯広市)、工藤剛(八幡平市)、澤田勝已(小牧市)、森久往(和泉市)、永友繁喜(宮崎県新富町)

▽相談役=寺田弘子(相模原市)、大野忠之(横須賀市)、桑原敏幸(岩国市)、田中稔(佐世保市)

【要望先】

岩本剛人防衛大臣政務官、田所嘉徳自民党総務部会長、北村経夫自民党副幹事長、川窪俊広総務省自治税務局長

第2回

奥州市

監事市紹介



市章

向上に寄与する議会を指しています。

議長の話



菅原由和議長



市内の散居集落 (写真提供=奥州市)

【市の概要】

▽人口 11万2314人 (令和4年6月30日)

▽面積 993.30km²

▽歴史・沿革 奥州市は、5市町村が合併し平成18年2月20日に誕生しました。県の内陸南部に位置し、総面積は993.30km²と広大な面積を有しています。

▽地域の中央を北上川が流れ、北上川西岸には胆沢川によって開かれた胆沢扇状地に、水と緑に囲まれた散居が広がっています。北上川東岸には、北上高地につながる田園地

帯が広がり、地域全体が緑あふれる豊かな自然に恵まれています。

▽シンボル 「奥のOと州のS」の外郭に、中心に「米」を納めて「奥」の字を簡略化しています。北上川と澄んだ空気を青で、主要産業である農林業を緑で表現。未来に向かい向上発展する姿を表しています。

▽議員定数 28人(現在・男性24人、女性4人)

▽前回選挙 令和4年3月6日。立候補28人。

▽議会トピックス 市議会では、政策立案ガイドラインを策定し、常任委員会ごとの市民対話を重視した七つの政策提言で、市の各種計画への反映を実現しています。今後チェック機能と提言機能の二刀流で、市民生活の

本市は、日本最高峰のブランド牛「前沢牛」や「江刺りんご」、海外でも人気の「南部鉄器」など、魅力的なものが豊富です。また、米大リーグ・エンゼルス大谷翔平選手の出身地でもあり、「ふるさと応援団」を組織するとともに、大谷選手の背番号にちなみ毎月17日を「大谷選手応援デー」として市を挙げて応援しています。

当議会においても、「チーム奥州市議会」として二刀流議会を目指し、「議長マニフェスト」の具現化をはじめ、積極的な議会改革に努めております。

市議

菅原由和

議長

の話

を

は

は